

おかえりなさい、宮下隊員

南極から無事に帰還しました

第53次南極地域観測隊越冬隊員として、1年4カ月、昭和基地で越冬生活を送りました。

毎日、毎日、南極の自然と格闘しているうちに1年が過ぎてしまいました。不安と希望を抱いて挑んだ越冬生活でしたが、多くの応援に励まされ、また素晴らしい仲間のおかげで、無事任務を終えて豊岡に帰ってきました。

《問合せ》植村直己冒険館 ☎44-15515



昭和基地での最後の仕事、自然エネルギー棟建設工事の合間に

「南極に行く」と思ったきっかけは？

きっかけは三つあります。

同じ大学の先輩が南極に行かれるというのを聞いてうらやましいなと思っていました。私自身南極という地にたいへん興味があり、非常に関心があったことが一つです。

二つ目は、南極で実体験をすることにより、最高の教材を手に入れることができ、帰ってきてから、子どもたちや市民の方に経験を話す機会が得られるだろうと思ったことです。

三つ目は、一流の研究者の皆さんと生活を共にし、世界に貢献できる観測活動に自身に参加できるということです。

そして、南極へ。実際、何の目印もない真っ白な大陸に降り立ったときは、大氷原にポツンと一人取り残されたような感じがして、恐怖心を抱きました。

南極の自然を目の当たりにし、改めて植村さんの勇気と冒険心に驚かされました。「夢を持ち、挑戦する」この植村

さんの心をこれからも受け継いでいきたいと思えます。

「昭和基地での仕事内容は？」

昭和基地では、環境保全部門の仕事を担当しました。昭和基地から出るごみの処理や汚水処理が主な仕事です。ごみは焼却したり、圧縮したり、切断したりして、一年後、日本に持ち帰れるよう処理します。汚水は浄化して、きれいなになった水だけを海に還します。

昭和基地のごみは24種類に分別されます。この中で、「燃えるもの」は焼却炉で焼却し、「生ごみ」(食堂で出るごみなど)は一旦、炭化装置で炭にした後、焼却し、その灰をドラム缶に詰めて持ち帰ります。

しかし、昨年に引き続き、今年も「しらせ」が昭和基地に接岸できなかつたため、私たちが一年かけて整理した廃棄物の多くは昭和基地に残すことになりました。基地を離れるに当たり、このことが非常に残念でした。

「自分の肌で感じた南極は？」

南極の自然は、想像以上に厳しく、簡単に私たち人間を

受け入れてはくれませんでした。ブリザードが吹き荒れ、外出禁止を余儀なくされたり、厚い氷に阻まれ、「しらせ」が接岸できなかつたりと、気象条件の厳しい南極では、物事が思い通りに進まないことが少なくありませんでした。状況を客観的に分析する力と、あきらめない精神の重要性を強く感じました。

南極生活で最も大切なことは、自然とうまく向き合うこと。このことは、コウノトリの野生復帰を進める本市でも当てはまることではないでしょうか。健康な「地球」があつてこそその私たち。日本を離れ、南極に来てグローバルな視点で地球を見つめ直せたからこそ考えさせられることでした。

「これからの抱負を聞かせてください。」

厳しくもあり、美しい南極の世界や私の体験を子どもたちをはじめ、多くの人々に伝えていきたいと思っています。また、いずれは市の環境政策の面でも役立てることができればと考えています。



私が選んだ!

南極越冬10大ニュース

②七色に揺らめくオーロラ



①コウテイペンギン、昭和基地に現る!

私がいちばん見たかったものは、コウテイペンギンでした。ペンギンの中で一番大きく、風格のある姿をどうしても間近で見たかったのです。2012年11月10日、3羽のコウテイペンギンが基地を訪問してくれました。これには大感激!



オーロラの神秘的な姿に見とれてしまいました。昭和基地は、オーロラが発生しやすい地域、「オーロラベルト」の真下に位置するため、オーロラ観測にとって理想的な場所だそうです。

③氷点下43.9度の最低気温を記録(観測史上第2位)

9月13日の最低気温はマイナス43.9度、最高気温はマイナス34.1度。



寒いというより「痛い」と表現したほうがピッタリかもしれません。昭和基地観測史上歴代第2位を記録しました。

※写真はマイナス38度のときのもの

⑦米・露合同査察団が基地を訪問

正しく基地の業務が行われているか調査。厳しい検査かとドキドキしましたが、和やかな雰囲気の中、無事に終わりました。



⑧深海魚ライギョダマシを釣り上げる

数年に一度しか釣れないといわれる、幻の深海魚ライギョダマシ。なんと80cmの大物を釣り上げ大興奮しました。

④豊岡市内5年生に南極教室を行いました



衛星通信システムを使って、昭和基地と豊岡市をつないで、市内の小学5年生約550人に南極教室を行いました。豊岡市の皆さんと会話ができるときはビックリしました。



風が作り出した模様「サスツルギ」



氷山 ふもとは数十万年前の水

⑨衆議院議員選挙、南極から投票

地球の南の果てからファックスで投票しました。私の票は豊岡市に届けられ、豊岡市民の一票となりました。貴重な経験でした。



⑩第53次隊、第54次隊越冬交代式終る

とうとうやってきた越冬交代。みんな良い笑顔です。昨年2月に第53次隊が越冬を



⑤ミッドウィンターフェスティバル委員長に就任

南半球の冬至に当たる6月21日の前後5日間にわたって行われる、越冬期間中最大のイベント。

太陽が昇らない時期「極夜」を楽しく過ごすため、工夫を凝らした催し物を考え、隊員全員で楽しめます。



開始してから1年、とても寒く辛いときもありましたが、無事この日を迎えられました。これも31人の団結力だと思います。私は残業のため、少し遅れて2月10日に「しらせ」に乗り込みました。

⑥観測船「しらせ」接岸できず

厚い氷に阻まれ昭和基地沖21kmで停泊。18年ぶりの接岸断念となりました。



南極派遣を終えて…

南極は唯一地球上でどこの国にも属さない地域。そして、厳しい自然に守られてきた南極は、「ふしぎ」の宝庫です。これまでもそうであったように、これからも世界共通の財産として大切に守り、さまざまな研究によって、「ふしぎ」を解明して行ってほしいと思います。厳しく魅力いっぱいの南極。何年後かにまた観測隊員が豊岡から生まれることを希望します。 第53次南極地域観測隊 宮下泰尚